

鴻池の村相撲と力士・三笠山

平成 18 年 4 月 29 日(土)～5 月 28 日(日)

はじめに

毎年 3 月になると大相撲春場所のために大阪入りする多くの力士が、鬢長油びんちょうあぶらのにおいを漂わせて、新大阪駅を降り立ちます。街のあちこちには、人気力士や相撲部屋の名前が入った幟が立ち、賑わいをみせます。

いっぽう、かつて河内地域は「村相撲」、「夜相撲」、「素人相撲」などと呼ばれる相撲の取り組みが盛んなところでした。このことは『河内名所図會』(享和元年(1801)に描かれた枚岡神社境内での相撲のようす(図 1)や、村々の共同墓地に残された相撲頭取(年寄)の墓碑、江戸時代の日記などからうかがい知ることができます。ここ鴻池でも「三笠山」という名の頭取が仕切った相撲集団があり、江戸時代から昭和にかけて相撲興行が執り行われていたようです。



図 1 枚岡神社境内での相撲のようす。『河内名所図會』(享和元年(1801))より。

河内の村相撲

現在の相撲の前身となる大坂相撲の誕生は、難波堀江の開発(元禄 11 年(1698))と密接にかかわっていました。この地の繁栄のために幕府が勧進相撲かんじんの開催を許可したことが、大坂相撲の始まりであると言われています。のちの延享・寛延期(1744-1750)に、江戸・京都・大坂の相撲集団が合同で四季勧進相撲を開催するようになり、現在の相撲の形を整えていきました(大阪歴史博物館 2005)。

大坂相撲の誕生から遅れること約 100 年、大坂相撲を引退した力士たちは村々へと戻り、その地に素人相撲集団を組織し、大坂相撲の系列に入っていました(大西 1995)。村の相撲集団の長は大坂相撲にならって「頭取」と呼ばれ、在村での相撲興行(地方巡業)を取

り仕切りるとともに弟子を育てました。明治時代には河内地方を中心に相撲集団が約 80 も組織され、隣接する村の相撲集団同士が集まって 8 つの組合が存在していました(大阪歴史博物館 2005, 表 1)。このうち鴻池の頭取・三笠山は 8 人の頭取(表 2)によって組織された「東中組」に属していました。

河内の村相撲は江戸時代の終わり頃から昭和の中ごろまで盛んに行われていましたが、昭和 49 年に東大阪市内下六万寺で第 23 代弓ヶ浜好一(山崎好一氏)が勸進元となって頭取襲名披露の相撲興行を行って以来、途絶えています。

表 1 明治時代に河内地方を中心に存在した村相撲組合とその分布地域

相撲組合	地域
交野十六部屋(交野組)	枚方市
東組	交野市、寝屋川市、摂津市、門真市
西組	大阪市旭区、都島区、鶴見区、城東区
東中組	大東市南部～東大阪市北部、東部
北中組	東大阪市中央部(旧河内市)
中組	大阪市生野区、東大阪市西部、八尾市
十三組	大阪市平野区、八尾市南部、松原市、藤井寺市、旧美原町
堺泉北相撲協会	堺市、泉北地域、南河内地域

表 2 東中組に所属した頭取衆とその出身地および墓碑所在地

頭取名	出身地	墓碑所在地
日の出山	三箇	大東市新町墓地
五十鈴川	芝・植附・石切	東大阪市芝・植附墓地
熊乃浦	加納・川田	東大阪市加納・川田共同墓地
一文字	客坊	東大阪市客坊墓地
岩川*	額田	東大阪市額田墓地
三笠山	鴻池・寺嶋	東大阪市鴻池墓地、同寺嶋墓地
早碓	諸福	大東市諸福墓地
弓ヶ浜	池島・下六万寺	東大阪市池島墓地

東大阪市吉田墓地にも明治末以降の岩川頭取の墓碑が 4 基ある。昭和 21 年に建立された岩川末吉墓には八ッ鐘、都川、京竜、楯山、磯川、西中川、中川の頭取の銘が刻されている。これらは北中組に所属する頭取衆であることから、額田の岩川(東中組)から分かれて、後に北中組に組み込まれた可能性がある。

頭取・三笠山と相撲興行

鴻池で村相撲が行われていたことは、鴻池墓地および寺嶋墓地に残っている頭取墓碑(図 2)や鴻池新田会所内朝日社の絵馬堂に奉納されている相撲番付(図 3)、在地の人々の証言により明らかになっています。これらの資料や聞き取り調査からは、頭取・三笠山は 17 代にわたって襲名されてきたことがわかりました(表 3)。また、第 17 代三笠山藤造(大艸藤造氏・97 才、図 4)は現在も鴻池在住で、以降は三笠山を襲名していないようです。

同氏の証言では以下のことが明らかになっています。

- (1) 鴻池では昭和 24.5 年ごろに三和銀行（現・三菱東京 UFJ 銀行）鴻池支店北側の田圃で、第 16 代三笠山弥三郎（福田弥三郎氏）の襲名披露相撲興行を行った。この興行が鴻池では最後になる。この時には第 40 代横綱・東富士が巡業に来た。
- (2) 他所で相撲興行が行われるときは、触れ太鼓を鳴らしながら頭取が弟子を大勢引き連れてやってきて、「花」をもらいに来た。
- (3) 「池之嶋」は非常に強い力士が揃っており、たびたび自転車で「池之嶋」まで出向き、相撲を取った。「池之嶋」だけが最近まで相撲をやっていた。

(1) の相撲興行については、大艸藤造氏だけではなく在地の方々も証言しています。(2) については近隣村の頭取が勧進元となって相撲興行を行うときに、別の頭取衆が寄付金を出す習慣があったと考えられます。また、頭取は門弟にもたびたび花を配っていたと言われています。(3) の「池之嶋」とは池島の古称で、弓ヶ浜一門のことを指しています。第 23 代弓ヶ浜好一襲名披露相撲興行の番付（図 5、山崎隆司氏蔵）には、検査役の中に「三笠山藤造」の名がみえ、この時に 8 人の三

笠山門弟が相撲を取ったことがわかります。「最近まで相撲をやっていた」というのはこの時のことを証言しています。

むすび

江戸時代以降、約 150 年にわたって盛んに行われた河内の村相撲は、娯楽の多様化やテレビの普及によって、昭和 30 年ごろからしだいに衰退していきました。残念なことに現在はまったく行われておりません。また、村相撲を知る人も少なくなってきました。今では村々の墓に残る相撲頭取の墓碑や、神社などに奉納された相撲番付でしか村相撲のことを知る事ができません。

このため、わたしたちのごく身近にあった娯楽文化を後世に伝えていく必要があると思われます。今年度秋の特別展示では、さらに範囲を広げて河内の村相撲全体を見渡し、そのようすを探ってみたいと思います。

（文責：別所秀高）

大阪歴史博物館 2005『特集展示・大阪相撲の歴史』8p.
大西英利 1995「河内の相撲と頭取」『大阪春秋』24(4), 50-55.



図 2 建立年がもっとも古い三笠山墓碑。嘉永 5 年 2 月建立。左側面には戒名「仙谿智洞信士」、正面下段には「門弟中」の銘が刻まれている。鴻池墓地にて。

図 3 朝日社絵馬堂に奉納された相撲番付。絵馬堂には明治 40 年、大正 6 年、大正 10 年、昭和 3 年および年代不詳の合計 5 枚の板番付がある。いずれも三笠山襲名時に晴天一日興行として鴻池で行われたもので、興行終了後に勧進元となった三笠山が、村の氏神である朝日社に奉納したものと考えられる。



表 3 歴代三笠山と墓碑建立年

代数	墓碑建立年	墓所	
	三笠山	嘉永 5 年 (1844)	鴻池
	三笠山	安政 3 年 (1852)	寺嶋
	三笠山嘉兵衛	文久 3 年 (1863)	鴻池
	三笠山政七	明治 5 年 (1871)	寺嶋
	三笠山伊右衛門	明治 13 年 (1879)	寺嶋
	三笠山浅五郎	明治 24 年 (1890)	寺嶋
8 代	三笠山卯吉	昭和 22 年 (1947)	鴻池
9 代	三笠山市造	同	鴻池
10 代	三笠山熊太郎	同	鴻池
11 代	三笠山菊松	同	鴻池
12 代	三笠山庄太郎	同	鴻池
13 代	三笠山小三郎	同	鴻池
14 代	三笠山徳次郎	同	鴻池
15 代	三笠山伊太郎	なし	
16 代	三笠山弥三郎	なし	
17 代	三笠山藤造	なし	



図 4 馬にまたがる第 17 代三笠山藤造（大艸藤造氏）。三笠山を襲名し、頭取になった昭和 30 年ごろのもの。



図 5 第 23 代弓ヶ浜好一襲名披露相撲興行（昭和 49 年 (1974)）の番付にみられる三笠山藤造の名前。検査役の一人として名を連ねている。山崎隆司氏蔵。

8 代～14 代の墓碑は 15 代三笠山伊太郎が代表発起人となり、合同墓として昭和 22 年に建立された。15 代三笠山伊太郎の墓はかつて存在したが現在は撤去されてなくなっている。16 代以降の墓は存在しない。